

## 軍事協力特集：クリミア情勢とロシア・ウクライナの軍事協力の行方

漢和防務評論 20140902(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

ロシアの一部の対外輸出兵器にはウクライナ製の部品が使われ、ウクライナの一部の対外輸出兵器にはロシア製部品が使われているので、今後どうなるか興味を持っていましたが、漢和防務評論に関連記事がありましたので紹介します。ウクライナは象徴的な意味で対露武器禁輸を発動していますが、財政厳しいウクライナの方がこの方面では不利と思います。欧米その他の対露経済制裁は、EUにとっても我慢のしどころで、双方がいつまで忍耐できるか見ものです。

**KDR** 平可夫クアラルンプール特電：

ウクライナがロシアに対する武器禁輸を宣言し、クリミアとウクライナ東部の情勢が悪化した後、ロシアとウクライナが初めてクアラルンプールの国際武器展示会に参加した。双方の展示ブースは同じ建物（第6館）の中にあった。

ウクライナのロシアに対する武器禁輸は、ロシアの対外武器輸出に影響があるのか？例えば、YAK-130 練習機、KA（カモフ）式ヘリが使用するエンジン等である。これに対し、ロシアのクアラルンプール国際武器展示会代表団団長 **NIKOLAY DIMIDIUK (COLONEL GENERAL, DIRECTOR FOR SPECIAL PROJECT)** は、KDR の取材を受け次のように述べた：今のところ、如何なる問題も起きていない。しかし今後は事態が如何なる方向に発展するか分からない、と。

また KDR は、ウクライナ国家武器輸出入総公司 (**UKRSPECEXP**) を取材したところ、官員は意気消沈し政治問題に触れることを拒否した。

**KDR** の質問：クリミア、ウクライナ東部の情勢は、ウクライナのタイ国に対する主力戦車の輸出計画に影響があるか？また一部のウクライナ製兵器はロシア製の部品を使っているが、これらの情勢によって影響を受けるか？

名前を公表しない条件で高級官員は KDR に次のように答えた：**ANDREI**（平可夫氏のカナダ名）、ハリコフ戦車工場では、全ての生産が正常に行われている。我々は、タイ国との契約は履行できる。現在、如何なる困難も無い。しかし、**ZUBR** の対中輸出問題は確かに影響を受けている。現在検討中なので、私は如何なる解決案も回答できない、と。

ウクライナが次の段階で中国に提供する ZUBR の部品、設備の代金は、すでに中国が UKRSPECEXPOT に支払い済みであることを KDR は知っている。しかし後者は、代金をクリミアにある工場に手渡していない。したがって条約の履行に障害が出ている。

両国国防工業の高級官員の上述談話から次のことが分かる：彼らは實際上現在のウクライナの危機を間接的に暗示している。ウクライナが武器禁輸を宣言しても、現在（4月）までは両国の軍事協力に影響を与えていない。今後どのように発展するか？ウクライナ東部の情勢次第である。したがって KDR の結論は：少なくとも現在、ウクライナの対露武器禁輸は、象徴的な意味合いの政治的決定に過ぎない。真に履行することは不可能だ。したがってロシアはウクライナに武器禁輸を実施していない。

ウクライナとロシアの軍事工業は、実際上一体化している。禁輸できるはずがない。一旦禁輸すると、双方に損失がでて、輸出に影響する。ウクライナの損失の方が大きくなる可能性がある。

以上